

港と地域の新たな可能性を探る

釧路港を核とする地域振興に関する研究

研 究 概 要



2004年3月

釧路公立大学 地域経済研究センター
釧路市

1 はじめに

本研究は釧路公立大学と釧路市が、共同で調査・研究を行い、とりまとめたものです。

釧路地域は、紙パルプ産業・石炭鉱業・水産業の三大基幹産業が立地し、港を地域の主要な産業基盤として発展を遂げてきました。しかしながら、石炭産業ではエネルギー事情の変化による事業の縮小、さらに、水産業における漁獲量の減少など、釧路地域の活力が低迷状況にあります。

一方、平成10年度に地域の期待を集め着工した西港区第4埠頭の多目的国際ターミナルが平成14年に供用され、新たな産業基盤の形成が図られることとなった他、外貿コンテナ定期航路の開設、食糧備蓄基地構想や静脈物流の推進など新たな産業を起こす機運も高まりつつあります。

このように地域の発展に港が大きく関わってきた経緯などを踏まえ、釧路再生に向け港を核とした地域振興策の研究に取り組みました。

2 釧路港を取り巻く環境

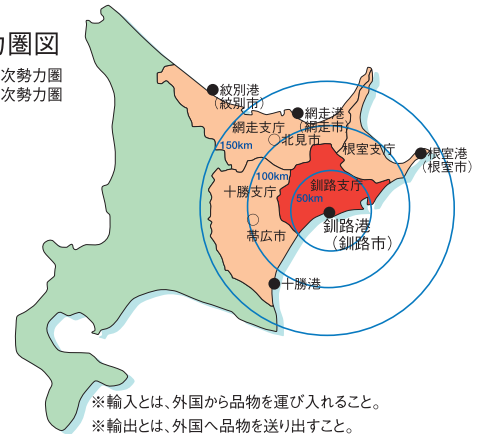
① 釧路港は、東北北海道の拠点港

★北海道有数の取扱いを誇る釧路港

- 釧路港の取扱貨物量は21～23百万トンで推移しており、道央、道南地域の苫小牧港、室蘭港、函館港に次ぐ取扱(H14)で、東北北海道の拠点港となっています。
- 東北北海道(釧路、根室、十勝、網走支庁)の港湾取扱貨物量の約9割を釧路港で取り扱っています。
- 背後圏の面積は北海道総面積の43%を占めています。
- 釧路港は背後圏の生活物資の多くを取り扱っています。

釧路港勢力圏図

■ 一次勢力圏
■ 二次勢力圏

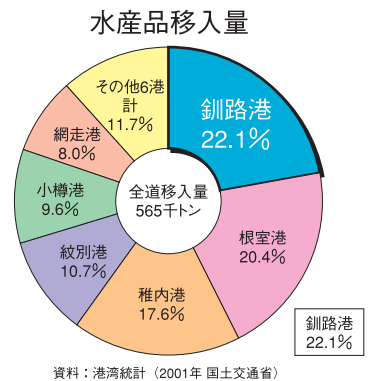
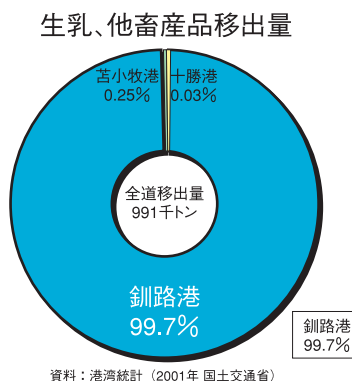
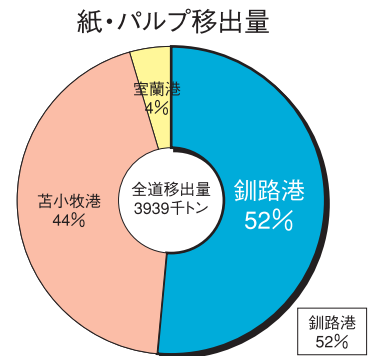
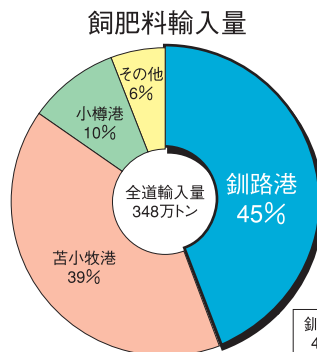


※輸入とは、外国から品物を運び入れること。
※輸出とは、外国へ品物を送り出すこと。
※移入とは、国内の他の土地から品物を運び入れること。
※移出とは、国内の他の土地へ品物を送り出すこと。

② 北海道の基幹産業を支えている釧路港

★北海道の他港と比べ基幹産業との関わりが強くなっています

- 釧路港での飼肥料、紙・パルプ、生乳、他畜産品、水産品の取扱はいずれも北海道の他港に比較して上位を占めています。

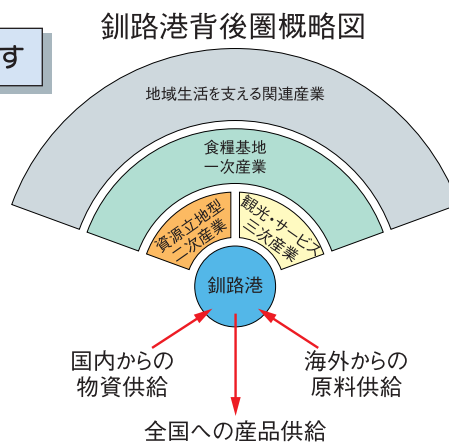


③日本の食糧基地を支える釧路港

★釧路港の勢力圏は、我が国有数の食料供給基地を形成しています

- 東北道は、酪農・畑作・水産等、我が国有数の食料供給基地です。
- 全国乳用牛頭数の3割強、肉用牛頭数の1割を占めています。(生乳の全国生産量3割、そのうち約1割が毎日専用船で関東(日立港)に出荷)
- 全国畑地の約3割を有しており、ビート、馬鈴薯、麦、豆類を生産しています。
- 全国漁獲量の約12%を占めています。

釧路港は背後圏産業の原材料を大量に輸入し、その生産品を全国に供給しています。又、背後圏における生活物資の多くを取り扱っています。

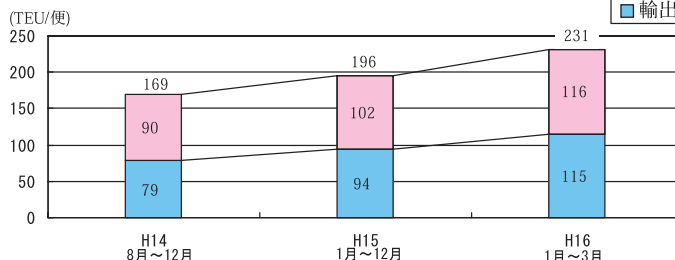


④国際的なネットワークが強化された釧路港

★外貿コンテナ貨物量の扱いが増大しています

- 外貿コンテナ船1航海当りの取り扱いが、当初に比べ約1.4倍に増えるなど、国際的な役割が増々大きくなっています。

外貿コンテナ船1航海当たり取扱量の推移



3 釧路港と地域経済の関わり

港湾関連産業と港湾依存産業に分類し、港が地域にもたらす影響を調べました。

港湾関連産業とは

港湾機能をソフト・ハード両面から支える産業→本研究では、運輸関連業・金融保険業・港湾関係官公庁を対象。

港湾依存産業とは

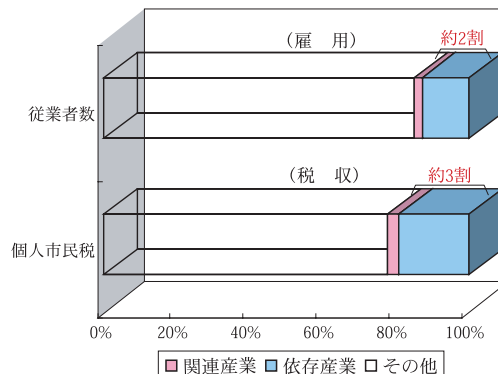
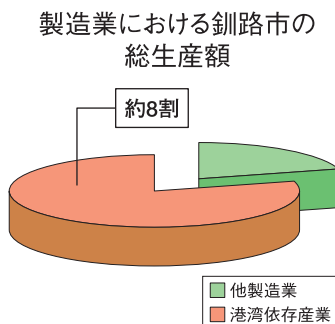
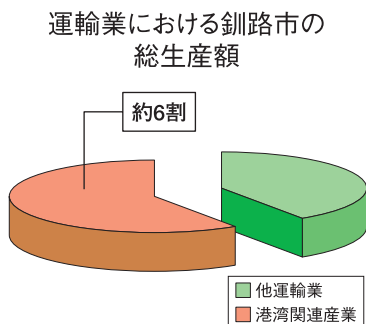
物流機能による貨物の搬出入を経済活動の基盤とする産業→本研究では、製造業(紙・パルプ・配合飼料、化学肥料、製造船等)、漁業、鉱業等を対象。

○港が雇用を創出し、地域経済に大きく影響します

★釧路市総生産額、雇用、税収に大きなシェアを占める港に関わる産業

- 釧路市の運輸業の総生産額に占める港湾関連産業の割合は約6割となっています。
- 釧路市の製造業の総生産額に占める港湾依存産業の割合は約8割となっています。

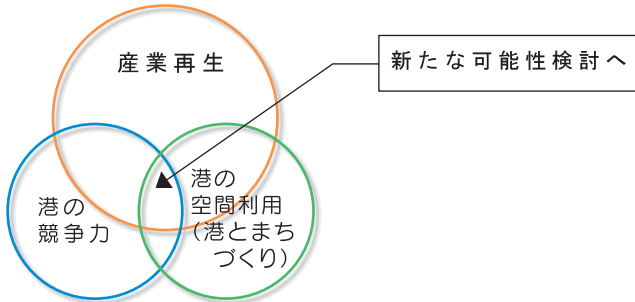
- 港湾関連産業と港湾依存産業の雇用者数を合わせると、釧路市全体の雇用者数の約2割を占め、これらに係わる個人市民税は約3割を占めています。



4 港を活用した新たな可能性

①新たな可能性検討の視点

- 将来の可能性を検討する際の視点を「産業再生」、「港の競争力」、「港の空間利用(港とまちづくり)」としました。



②地域振興への取組テーマ

- 地域の課題を踏まえ、産業再生という視点から5つのテーマで整理しました。これらのテーマのもとに、既存の技術ストックや新たな技術開発により、産業間の様々な結びつきを期待します。
- そうすることで、釧路地域の自立を促します。

★5つのテーマ

- ① 食
- ② 環境・リサイクル
- ③ 観光
- ④ 健康・福祉
- ⑤ 自発創造 (ベンチャー等)

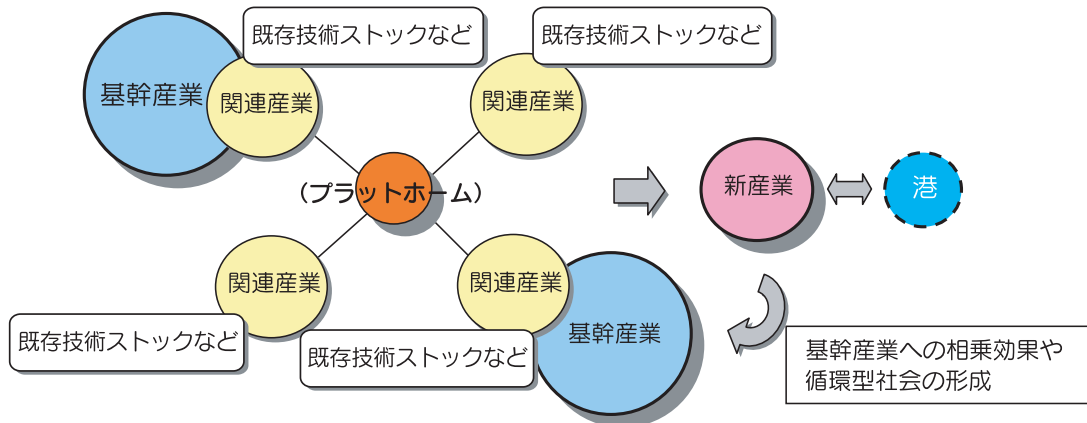
- 「競争力のある多参画社会」の形成
- 開放・連携型システムの構築

③産業振興構築の考え方

人、技術、情報、製品、資源などを組み合わせるプラットフォームという概念を活用し、新たな産業展開を考えると次の2つのケースが考えられます。

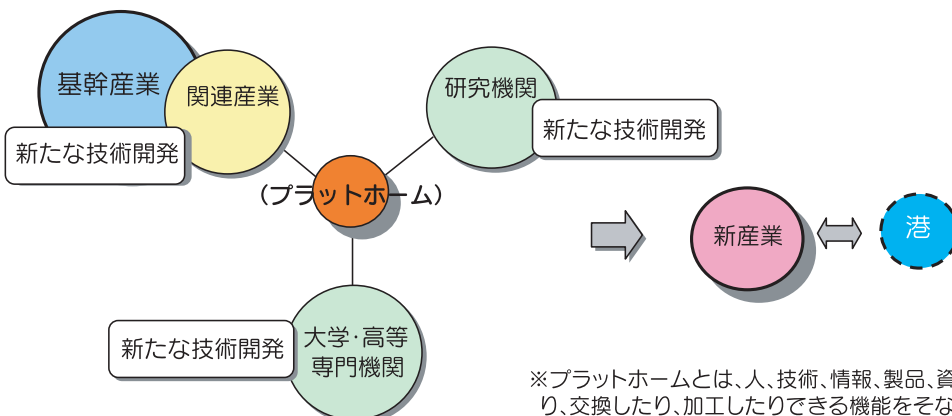
☆ケース①「既存技術ストックの利用による産業の創出概念」

- 基幹産業の既存技術ストックの連携による新たな技術開発や産業展開。
- 余剰資源の活用による新たな産業展開



☆ケース②「新たな技術開発による産業創出概念」

- 基幹産業と研究機関などとの連携による新たな技術開発や産業展開。



※プラットフォームとは、人、技術、情報、製品、資源などを組み合わせたり、交換したり、加工したりできる機能をそなえた場。

5 地域振興のための方策

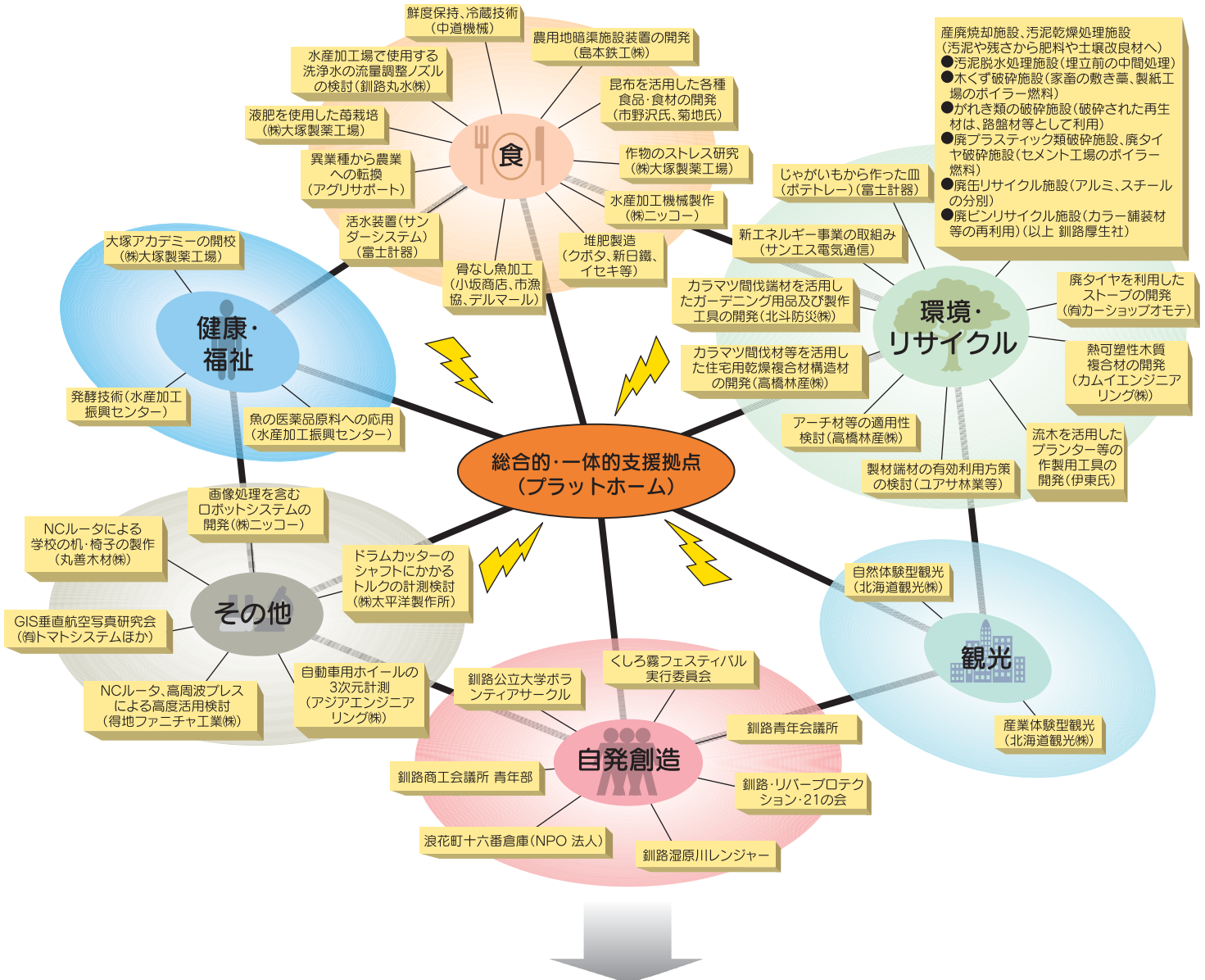
プラットフォームを活用した地域振興へ

シーン1	地域振興に向けた連携支援の場を創出
シーン2	新たな取り組みに向けた実証(実験)の場を創出
シーン3	賑わい交流空間の創出



シーン1 地域振興に向けた連携支援の場を創出

- インターネットを活用しながら個別の技術ストックについて、地域情報の共有による技術連携。
- 新たな産業創出に向けた研究開発を展開している機関や研究内容について支援できるシステム(ノウハウ、人、資金面等)の構築。

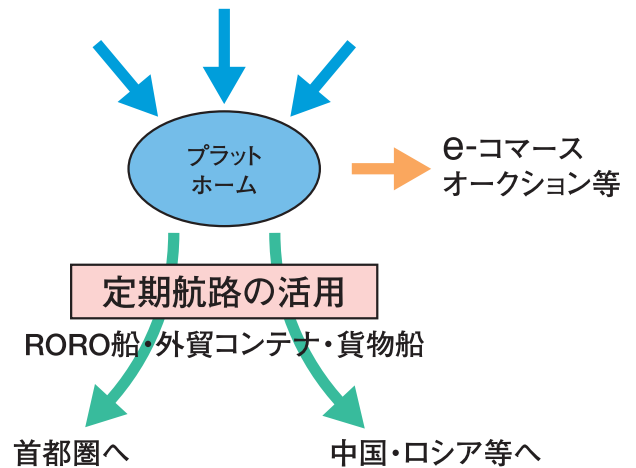


異業種の連携による新産業の創出や新商品の開発

シーン2 新たな取り組みに向けた実証(実験)の場を創出

①商取引空間の場

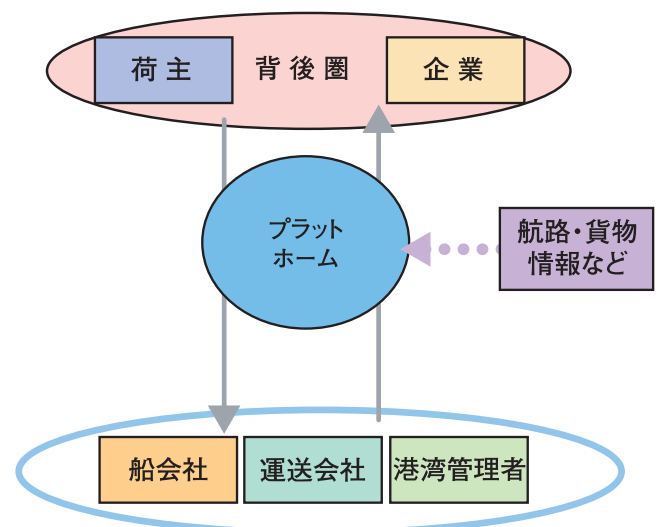
- 定期航路のRORO船やコンテナ船で新たな地場の農水産品の首都圏などへの供給や、港湾を活用した商取引の場を設定し、実証実験の取り組みを進め、その情報を提供します。



※e-コマースとは、インターネットを利用した商取引のこと。
※RORO船とは、自走でトレーラーを積み卸しする荷役方式の船で、荷役時間の短縮と海陸一貫輸送ができます。

②港湾ビジネスの情報共有

- 港湾ビジネスにおける物流の活性化について、例えばインターネットを活用することにより、物流の活性化を促進します。そのため、船会社、荷主、海貨、運送会社、ターミナル等の連携のもとに、システムの構築を行っています。



シーン3 賑わい交流空間の創出

○賑わい交流空間の創出のために

- 利用者との協働の取組により、全天候型緑地EGGでのコンサート開催などの多目的利用や、ストリートスポーツパークの整備・利用を促進します。
- これらの取組やその他のイベント企画、産業体験学習などの情報を交流拠点としてのプラットフォーム(釧路港サポーターホームページなどを開設)を活用し、賑わい交流空間の創出を支援します。



6 今後に向けて

本研究会では、釧路港と地域との関わりを明らかにし、地域振興にむけた考え方を取りまとめました。シーン1では産業情報プラットフォーム戦略、シーン2では社会実験による効果検証、シーン3では観光も含めた都市との連携による交流のためのPR戦略としてまとめました。

港の役割を十分に理解していただくと同時に、港からの情報発信を十分に活用していただくため、地域情報を共有するための支援システムを構築していくことが必要と考えています。

現在、釧路市では、地域再生に向けた様々な動きがあり、これらとも連携を図りながら、港を核とした地域再生の取組を行っていかうと考えています。



釧路公立大学地域経済研究センターでは、釧路市との共同研究として「釧路港を核とする地域振興研究会」を発足し、平成14年度から2か年にわたって、港と地域の係わりを明らかにし、市民の方々に港をもっと理解してもらおうと同時に、地域の重要な資源としての港を活用した地域発展の方策を見出すために、議論を重ねてまいりました。

本パンフレットでもお示しているように、釧路港は、そこから出入りしている荷物は地域の後背圏、道内や全国など幅広い範囲にわたり、広域的な物流機能を持っていることが分かります。また、釧路地域の多くの産業活動が港に関連しており、釧路港が地元地域の経済活動、雇用や財政に及ぼす影響の大きさを改めて本研究会を通じて実感したところです。

本研究会では、5つのテーマを掲げて、地元企業が取り組んでいる技術開発や技術連携についてヒアリングを重ねてきましたが、それぞれの分野で積極的な取り組みが行われ、高い志をもって頑張っておられる地域の現状にはあらためて目を見張るものがありました。

こうした地域の意欲的な芽を育むひとつの場になればという思いで、研究会は「プラットフォーム構想」を提案しました。地域内の個々のエネルギーを連携、結集することにより、あらたな力が生まれてくることを期待しております。

実践に向けては多くの課題もあるでしょうが、一歩でも歩みを前に進めることにより、みなとまち、釧路が頑張っている姿を全国に発信していければと願っております。

本研究会の活動は、釧路市と釧路公立大学地域経済研究センターとの共同研究プロジェクトとして実施しました。研究員として参加いただいた、釧路市港湾部の皆さん、パシフィックコンサルタンツ株式会社の皆さんには研究会の運営、議事のとりまとめや、ヒアリング等を担っていただき感謝しております。また、お忙しいなか研究会に参加いただき貴重なご助言をいただいた(社)国際港湾貨物流通協会の川崎芳一氏、北海学園大学の高原一隆教授、帝京大学の和田正武教授、釧路公立大学の中園桐代助教授には厚くお礼を申し上げます。その他研究会に参加していただいた関係者の方々やヒアリングに協力していただいた企業の方々にも改めて感謝する次第であります。

共同研究代表者／釧路公立大学教授

小磯 修二

お問い合わせ先

釧路公立大学地域経済研究センター

TEL. 0154 - 37 - 5325
FAX. 0154 - 37 - 5376
mail. r-center@kushiro-pu.ac.jp

釧路市役所港湾部

TEL. 0154 - 53 - 3374
FAX. 0154 - 53 - 3373
mail. ku210201@city.kushiro.hokkaido.jp